

第3回 HiPeR 国際シンポジウム開催報告

平成31年2月26日～27日の期間で第3回 HiPeR 国際シンポジウム “East Asia plate tectonics: An historical perspective and future research highlights” を開催しました。26日のシンポジウムでは、Chongbuk National University、Vietnam National University、九州大学、鹿児島大学から6名の参加者を迎えることができました。広島大学側の参加者を加えると、総勢40名ほどのシンポジウムとなりました。27日には HiPeR メンバーが島根県津和野町で最近発見した、日本一古い古原生代花崗岩複合岩体の巡検を行いました。

26日は、セッション1として1時間ほど専攻施設の見学を行なった後、午前10時から井上徹 HiPeR 代表による挨拶と HiPeR 紹介を皮切りに、4部構成での口頭発表と討論がありました。

セッション2では韓国 Chongbuk 国立大学の Chang Whan OH さんと、ベトナム国立大学ホーチミン校の Pham Trung Hieu さんにより東アジア地域の大陸地殻形成史について最新の研究成果を発表していただきました。セッション3では、これに対する応答として九州大学の中野伸彦さんの発表があり、また、広島大学の早坂は原日本列島の中・古生代テクトニクスについての発表を行いました。セッション4では、Young HiPeR forum として、ベトナムから Pham Minh さんと Truong Chi Cuong さん、そして広島大学から木村光佑君、川口健太君の発表と活発な討論がなされ、若い人の英語力の上達にも感心しきりでした。セッション5では、Case studies on deformation, metamorphism and ore deposits と題して、鹿児島大学の Hafiz-ur Rehman, さん、広島大学の星野健一さん、安東淳一さん、Kaushik Das さんの発表があり、活発な討論が交わされました。シンポジウム終了後には、和風居酒屋での懇親会となり、20名の参加で第二ラウンドの議論が展開され、今後の共同研究の計画なども話し合われました。

27日は、シンポジウムでも紹介された、木村君らにより島根県津和野町で発見された日本一古い25～18.5億年前の古原生代花崗岩複合岩体の野外巡検で、津和野町教育委員会と郷土館の方々を加えた総勢15名の参加となりました。現地では花崗片麻岩の露頭を前に活発な議論がなされました(写真)。帰りには津和野町郷土館に招待され、日本の地質学の黎明期を支えた地質学者・小藤文次郎の展示物に触れ、日本一古い地質学者の生まれた町で、日本一古い岩石が発見されたことに、皆一様に感慨ひとしおといったところでした。本シンポジウム開催でお世話になった事務職員の方々と関係者の皆様方には、この場をお借りして感謝申し上げます。(早坂 記)

